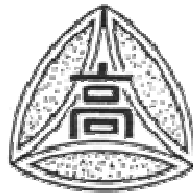


平成21年度

学校評価資料



千葉県立船橋法典高等学校

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_1

部・学年	教務部
重点目標	1 校内での教育活動を積極的に公開し、地域から信頼される学校づくりを目指す。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
① ホームページの内容を刷新し、定期的に更新する。 ② 開かれた学校づくり委員会やミニ集会等において、活動内容を紹介するとともに、意見や要望を聞く。	① <u>ホームページの掲載内容と更新状況</u> ② 開かれた学校づくり委員会及びミニ集会の開催状況、参加者に対するアンケートの実施
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
① ホームページについては、7月上旬に全面改訂し、その後漸次更新している。ホーム、学校概要、特徴、学校生活、入試情報、進路情報、アクセス、在校生、卒業生、保護者の10項目を設け、それぞれ丁寧にわかりやすく作成した。また、各種申請書類等の様式がダウンロードできるようにした。 ② 開かれた学校づくり委員会は、6月20日、10月3日及び1月22日に開催し、授業・行事（文化祭）の見学や学校関係者評価の作成などを行った。また、ミニ集会は、10月3日に開催し、「ユニバーサルデザインによる特別支援教育を目指して」をテーマとし、本校の先進的な教育実践を説明した。時間的な制約もあったが、本校の教育活動を紹介するとともに、ある程度、意見や感想を聴取することができた。	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
① ホームページの構成については、大幅に改善できたが、更新の頻度は、必ずしも十分とは言えない。教育目標を達成しようとする学校の姿（途中経過）を広く伝えるために、ホームページを担当する校務分掌を新たに作成したい。 ② 開かれた学校づくり委員会やミニ集会の開催に際しては、時間的な制約があるので、ピンポイントでテーマを設定し、より効果的な運営を心がけたい。	
v 学校関係者評価の結果	
① ホームページの内容が、他校に比較してもう少し充実させて欲しい。部活動の内容をさらに充実させて欲しい。試合の日程等をのせてもらいたい。部活動のページは、中学生が見て、受検校選択の1つの判断材料であり大切にしたい。また、保護者用のページで、PTA活動の内容をもっと充実させて欲しい。本校生徒の校外での清掃活動など、良いことをしていることを公開して欲しい。アクセスカウンターをつけ、アクセス状況を把握する必要がある。 ② 開かれた学校づくり委員会やミニ集会をとおして、地域・保護者・学校の話し合いが行われ、連携して学校を良くしていく取組ができるようになった。	
vi 学校評価のまとめ	
① ホームページを活用して、学校が良くなったこと、そしてその取組を公開して欲しいという学校関係者の強い要望を受け、さらに充実した内容にしていく必要がある。学校がよくなるにつれ、学校の活動に対する地域・保護者の関心が高くなっており、その思いに答えていくようなホームページ作りに努めてゆきたい。 ② さらに地域・保護者等と連携して、信頼される学校づくりが行えるよう検討していく。	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_2

部・学年	教務部
重点目標	1 基礎・基本の定着を図り、授業の工夫・改善に努め、分かる授業の確立を図る。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
① 生徒の学力に適した教材の精選・開発・活用に努める。 ② 説明・板書・発問など工夫し、集中した授業ができるように努める。	① <u>生徒による授業評価アンケートの結果</u> ② 定期的な授業公開の実施、保護者・教員による授業参観と授業評価アンケートの実施、校内研究授業・ <u>研修会の実施回数とその状況</u>
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
① 生徒による授業評価アンケートを12月11日から15日にかけて実施した。生徒たちの回答（授業評価）は、概ね良好であった。ただし、集計の結果を項目ごとに見ると、授業の中で、生徒たちが考えたり、話し合ったり、発表したり、実験・実習を行うなど、実際に活動する場面が意外に少ないということが、明らかになった。また、わかりやすい授業、魅力的な授業という点でも多少課題が残った。 ② 職員間授業公開は、5月7日・8日及び9月24日・25日に実施、保護者・教員による授業参観は、6月20日(土)及び10月3日(土)に実施した。6月26日には音楽担当者による校内研究授業が実施した。職員全体での校内研修会は、5月22日に発達支援、7月7日にAEDの操作、9月11日に発達支援、11月30日に就職支援、12月9日に人権同和教育と計5回を実施した。いずれも充実した内容であった。	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
① 「誰に」「何を」「どうやって」教えるのかという観点で授業の原点を見直し、教員一人一人の授業力向上を目指したい。特に、講義一辺倒の授業ではなく、生徒たちが考え、活動できる授業を心がける必要がある。また、そのためには、授業規律の確保、綿密な年間指導計画の作成、指導内容・教材の厳選などについて留意したい。 ② 職員間授業公開の期間中、授業見学をする職員が少なかった。授業準備や学年室当番などで余裕がないこともあるが、もっと教員相互の授業見学を推奨したい。他教科の授業展開や生徒の様子など、有意義な情報がたくさん得られるはずである。また、若手教員の授業力アップのために、組織的なOJTに取り組む必要がある。	
v 学校関係者評価の結果	
① 保護者の方から、「息子が、法典高校では、よくわかる授業をしてくれると言っていた。」という話を聞いた。また、生徒の授業アンケートで、先生の「教え方に熱意が感じられた」と答えた生徒が、39%もいたというのは大変すばらしいと思う。 ② 授業公開や研修については、さらに教員の授業力アップのために充実した内容として欲しい。	
vi 学校評価のまとめ	
① 学校が落ち着くにつれ、生徒の学力向上を保証するために授業内容を工夫し、わかる授業を行うことが、より重要になってきている。授業アンケートの結果をふまえ、我々職員が生徒の学力に適した授業の工夫を行えるようにしたい。 ② 生徒のわかる授業を実践し、基礎・基本の定着が図れるよう、さらに研修や授業公開を充実させていく。	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_3

部・学年	教務部
重点目標	2 主体的な学習態度を養い、学業生活を充実させる。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
③ 「さわやか朝自習」を効果的に実施する。	③ 確認テストの結果、漢字検定の合格状況、百人一首大会の開催状況、読書活動の状況など
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
<p>③ 朝自習について、1年生は、本校独自の「K1検定」（Kは基礎学力のイニシャル）を毎日実施し、不合格者に対しては放課後の指導を行った。2年生は、「基礎力診断ドリル」を計画的に学習させ、修学旅行の事前学習を1ヶ月間行った。3年生は、「基礎力診断ドリル」「就職試験対策ドリル」を計画的に学習させた。漢字検定の結果について、2年生は、3級17名、4級9名、5級2名が合格、3年生は、準2級10名、3級26名、4級2名が合格した。百人一首大会は、1月14日・15日の2日間に渡り開催され、生徒たちは真剣にチームワークよく取り組んだ。朝読書は、1・2年生が10月下旬から11月末まで、3年生が9月はじめから11月末までの期間実施した。本を持参しない生徒に備えて、司書が適切に選択した本を学年室に運び出前貸出を行った。集中して本を読んだことがない生徒が大部分であるが、一人一冊以上読み、本のおもしろさを感じたという感想が数多くあった。</p>	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
<p>③ 朝自習については、担任のきめ細かく粘り強い指導なしに行うことはできない。静かに集中して行わせるまで、かなりの労力を必要としたが、各学年とも軌道にのっている。将来的に継続して実施していくために、教材も含めたノウハウの蓄積と継承を組織的に行う必要がある。本校の「さわやか朝自習」をさらに充実させることにより、高等学校普通科における学習の前提となる基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、これから社会の中で力強く生きていくために役立ち、人生を豊かにする知識や教養など、いわゆる「うるおいのある活きた学力」を培ってゆきたい。</p>	
v 学校関係者評価の結果	
<p>③ 朝自習が定着しているのは、とても良いことである。生徒が落ち着いて授業に臨めるよう、本校独自にはじめた内容であることに感心する。遅刻者がいても、整然と自習がおこなわれているとのことであり、読書活動の推進にも繋がり、自己啓発指導重点校の取組として非常に成功していると思う。</p>	
vi 学校評価のまとめ	
<p>③ 朝自習が定着し、本校の特色の1つになっている。本校入学後、学習内容の基礎基本から、きめ細かく指導していき、生徒も自分の努力の成果を体験できる内容となっており、軌道にのってきたといえる。さらに、朝自習が充実したものとなるよう、教育課程における位置づけを検討したい。</p>	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_4

部・学年	総務部
重点目標	2 PTA活動を活性化し、学校の総合的評価向上に資する。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
<p>③ PTA理事との連絡を密にし、各PTA委員会活動の活性化に努める。</p> <p>④ PTA総会及び理事会が、文字通り保護者全体の意思決定の場になるようその運営に当たる。</p> <p>⑤ 地域住民から寄せられた声に、真摯に耳を傾け可及的速やかな対応に努める。</p>	<p>③ 各理事のPTA委員会の参画状況、及びその活動状況の把握</p> <p>④ PTA総会の参加状況、特に前年比での増減数の把握</p> <p>⑤ 地域住民から寄せられた意見や要望の把握、ミニ集会等での発言内容の分析・把握</p>
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
<p>③ 通学安全委員会は、6月26日及び11月27日に延べ13名が参加して下校指導を、10月16日には6名が参加して環境美化活動を実施した。広報委員会は、6月5日及び6月19日に開催され、延べ15名が出席した。企画委員会は、6月23日及び10月20日に開催され、延べ5名が出席した。各委員会とも本校PTA活動の核となり、活発に活動した。</p> <p>④ 総会参加者は32名で、昨年度比+2の微増であった。活発に協議が行われる場面もあり、充実した内容であった。</p> <p>⑤ 校外清掃は、地域の方から好評を得ることができた。また、青少年補導員からは、現在の本校生徒は、数年前の状況からは想像できないほど、素行が改善されているとのお話をいただいた。</p>	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
<p>③ 現行路線を踏襲しつつ、一層の活性化に努めたい。</p> <p>④ 理事以外の会員に、更なる出席の呼び掛けを行い、参加者増を狙いたい。また、単なる数合わせにとどまらず、小数意見を大切にするといった会の運営に努めたい。これは理事会にもあてはまることである。</p> <p>⑤ 来年度から、好評の全校校外清掃に加え、学年別の校外清掃を企画し、現在関係方面と調整中である。</p>	
v 学校関係者評価の結果	
<p>③ どの委員会も積極的に活動したと評価できる。特に、今年度新設された企画委員会は、はじめて校内での研修会を企画するなど、十分に機能を発揮したと思う。</p> <p>④ 参加者数は、微増ではあったが、内容の濃い協議がなされ、意義のあるPTA総会であった。来年度は、3桁の参加者を目指してほしい。</p> <p>⑤ 校外清掃は、大変結構なことである。今後、地域の町内会等との連携ができると良いのだが。</p>	
vi 学校評価のまとめ	
<p>③ 概ね高評価であったが、運営の方法を検討していくことも必要である。</p> <p>④ 「いかに参加者を増やすか。」という問題は今後の検討課題であるものの、内容面重視の方向性は堅持したい。</p> <p>⑤ 学年別の校外清掃を充実したものとしたい。</p>	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_5

部・学年	事務室
重点目標	3 適正で効率的な財産管理と公金の扱いに努める。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
⑥ 予算要求の内容を精査し、効果的な配分及び執行を行う。	⑥ 各教科の指導計画に基づいた教材・教具等の充足状況
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
⑥ 本年度は過去5年間分の経理調査が実施され、県費支出のあり方を再確認した。また、教科等の予算については、できるだけ早期に教材教具の購入を実施することにより、効果的な執行となるよう心がけた。	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
⑥ 予算本来の目的を捉え、外部から見ても用途が適正であると判断される公金の取り扱いをする意識を持つようにしたい。また、ここ数年、県費予算配当の減少が続き、教材・教具を十分に購入ができないケースが生じているが、生徒に関連性の高いものについては、一部、PTA会計等からの支出を考慮するなどして、教科等の指導計画に協力したい。	
v 学校関係者評価の結果	
⑥ 部活動など、生徒の活動が活発になり、予算面での支援が必要になってきている。特に保護者会の立場では、学校のために何かしたいということがあり、今年はPTA研修会なども予算0円で行い、その分を部活動等の振興に充てたところである。今後は、課外活動の振興などを目的とした後援会のような組織の設立を検討してほしい。	
vi 学校評価のまとめ	
⑥ 予備費的な予算を確保することは難しいので、年度の後半で、当初の計画にない費用がかかるような事態をできるだけ防ぎたい。また、校内の物品で現在使用していない物などを把握し、他の教科・分掌等で使用が可能であれば利用するなどして、予算の効果的な配分に繋げたい。	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_6

部・学年	生徒指導部
重点目標	1 生徒指導の機能を教育活動全般に浸透させ、基本的生活習慣の確立に努める。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
① 家庭との連携を密にし、前年度より出席率を向上させる。 ② 遅刻回数を減らすために、月10回以上遅刻した生徒への指導を徹底する。	① 月ごとの欠席者数 ② 毎日の学校全体の遅刻者数
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
① 12月まで8ヶ月間の延べ欠席者数（括弧内は前年比）は、1年 1,282人（+41人、+3.3%）、2年 1,158人（-385人、-25.0%）、3年 1,329人（-108人、-7.5%）、合計 3,769人（-492人、-11.5%）であった。全体として、前年同時期に比較して、欠席者数を1割以上減らすことができた。 ② 12月まで8ヶ月間の延べ遅刻回数（括弧内は前年比）は、1年 1,152回（-517回、-31.0%）、2年 1,516回（-222回、-12.8%）、3年 1,785回（-274回、-13.3%）、合計 4,473回（-1005回、-18.3%）であった。全体として、前年同時期に比較して、遅刻回数を2割近く減らすことができた。	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
① 各学年に長期欠席者（30日以上）が複数いるので、学年ごとの比較は簡単ではない。いずれにしても長期欠席者への対応は、大きな課題である。また、1日平均の欠席者数は26.5人、1日平均の欠席者の割合は6.3%であった。 ② 1日平均の遅刻者数は31.5人、1日平均の遅刻者の割合は7.4%であった。まだまだ、絶対数が多いので、来年度も、家庭の協力を得ながら「遅刻回数による段階的指導」を効果的に運用し、組織的に対応して行きたい。	
v 学校関係者評価の結果	
① いつ来校しても、校舎内外とも綺麗である。落ちついた雰囲気があり、生徒とすれ違いの際は、気持ちよく挨拶してくれる。登下校のマナーも以前と比較して良くなってきた。今年度に入り、近隣の小中学生のお手本となっている。 ② 遅刻、欠席については、保護者の協力が大である。わが子に対し、しっかりとした指導も必要である。	
vi 学校評価のまとめ	
① 日々の地道な指導が、落ちついた学校づくりに繋がっている。今後も職員の共通理解のもと、しっかりと指導していきたい。 ② 月1回のマナーアップ隊の効力は大きい。生徒会活動の一環として更に拡大していきたい。また、遅刻の実態を保護者にも見てもらい、改善に向けて協力を要請したい。	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_7

部・学年	生徒指導部	
重点目標	2 定期的な頭髪・服装指導を実施し規範意識を育てる。	
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
③ 頭髪・服装に関わる全校一斉指導を年間指導計画の位置づけるとともに、各学年による頭髪指導にも重点をおき、一斉指導前に改善指導対象者が減少するよう努める。	③ 全校一斉指導の実施状況、各学年による頭髪指導の対象者及び改善指導対象者の把握。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）		
③ 全校一斉指導の前の学年による服装、頭髪チェックにおいて、違反している生徒に対して、十分な指導を行った。また、今年度より、ネクタイ・リボンに関しては学年室に貸し出し用を用意した。その結果、「改善指導」を受ける生徒は、かなり減少した。なお、学年毎の指導対象人数は、1年41人、2年19人、3年93人、「改善指導」の対象人数は、1年5人、2年19人、3年22人であった。		
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）		
③ 「改善指導」の対象生徒がゼロになるよう、さらに各学年と連携したい。また、生徒全体には、各学期の終業式にておいて指導部長講話を行い、指導の趣旨を徹底したい。		
v 学校関係者評価の結果		
③ 本来は家庭での躰の部分であるが、先生方にもさらに根気強く指導してもらいたい。また、保護者会として組織的に、生徒指導に協力する方法がないか検討してほしい。		
vi 学校評価のまとめ		
③ 全校一斉指導の期間を保護者にも周知して、家庭での協力が得られるようにしたい。また、生徒が頭髪・服装のルールを守ることの大切さを自覚し、各自が考えて行動できるような学校を目指したい。		

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_8

部・学年	1 学年
重点目標	3 夢の実現に向けて、前向きに学校生活に取り組めるよう、精神的な自立を涵養する。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
<p>④ 生徒指導に関する本校の「新しき良き伝統」を継承しつつ、さらに発展させる。</p> <p>⑤ クラスの枠を超えた班活動や係活動を行い、自主性と責任感を養う。</p>	<p>④ 生徒指導に係る学年集会、LHR等の実施状況</p> <p>⑤ 班活動や係活動の実施状況と生徒の感想</p>
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
<p>④ 「継承と発展」という職員の共通認識のもと、各学年の特性に応じた指導を取り入れながら、学年集会やLHR、さらに日々のSHRにおいて服装・頭髪指導及び遅刻指導を行った。達成途上ではあるが、指導の趣旨を生徒に周知徹底することにより、職員の意識を、生徒に伝えることができた。</p> <p>⑤ 週末ごとの係活動、班長会議、それを受けての月末のルーム長会議を行った。これにより、自ら課題を見つけ、それを自分たちで改善していこうとする姿勢が、一部の生徒に見られるようになった。このような姿勢は、他の生徒にも広がりつつある。</p>	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
<p>④ 生徒指導に関する職員の意識や思いは生徒に伝わっているので、目標の伝達から達成を目指したい。</p> <p>⑤ 教員主導の学年集会において、一部に係り生徒の発表を設けてみると、聞いている生徒に前向きな反応が見られた。このような、「生徒による生徒の意識向上」の機会をさらに増やし、生徒主体の活動を大切にしたい。</p>	
v 学校関係者評価の結果	
<p>④ 全校生徒参加のカルタ大会では、1年生は上級生チームを相手に、服装・頭髪面も含めて、きちんとしたマナーで楽しく盛り上がっていた。日頃の生活指導の成果が確認できる。</p> <p>⑤ 生徒自らの具体的で継続的な実践として、係活動や、班長会議・ルーム長会議を行うことで、自主性と責任感を養うとともに、健全な自治意識を高めることに繋がっていると考えられる。</p>	
vi 学校評価のまとめ	
<p>④ 大多数の生徒は、服装・頭髪・遅刻など生活指導に関するルールに肯定的な姿勢を見せている。健全な多数派を大切にしていきたい。</p> <p>⑤ ルーム長のアンケートによれば、ルーム長会を建設的な自治組織として肯定的に捉えており、自分たちの手で行事を活性化したり、(将来的には) 学年ごとのルーム長会交流会を通じて、自分たちの手で学校をさらに良くしていきたいという前向きな思いが伝わってくる。「生徒による生徒の意識向上」を、時間をかけて達成に向かわせたい。</p>	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_9

部・学年	2 学年
重点目標	4 コミュニケーション能力を高め、相手を思いやる心を養う。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
<p>⑥ 個々のコミュニケーション能力を測るために、TK式バッテリーテストⅡを実施し、生徒の現状を把握するとともに、個人面談を行う。</p> <p>⑦ 修学旅行の中で、民泊を実施する。</p>	<p>⑥ テストの実施結果、<u>生徒理解のための工夫・取組の状況</u></p> <p>⑦ 修学旅行終了後の生徒の感想や民泊先の方からの感想</p>
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
<p>⑥ TK式バッテリーテストⅡの実施結果（学級担任用、生徒用）をそれぞれ活用し、生徒の現状の分析を行った。実施結果の資料のうち、「知能に関する情報」は学習指導に、「性格・向性に関する情報」は生徒理解に、「適応傾向に関する情報」は生活指導に、それぞれ活かすことができた。また、学級担任が、生徒と個人面談を行う際の客観的な情報として活用し、生徒理解を促進することができた。</p> <p>⑦ 修学旅行において、沖縄県の東村観光推進協議会の農業体験プログラムに参加し、民泊を実施した。各民家に3名から5名の生徒がお世話になり、農業体験や人とのふれあいを通じて、沖縄の文化を知るとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心を育むことができた。</p>	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
<p>⑥ テストの実施結果をさらに活用するために、「年間プログラム」の実施や関係分掌（教務、進路指導、生徒指導など）の協力体制について検討が必要である。</p> <p>⑦ 生徒にとって、民泊先との事前の情報交換など「事前学習」が有効であった。また、新型インフルエンザ等、現地での急患対策は、万全を期す必要がある。</p>	
v 学校関係者評価の結果	
<p>⑥ 実施後の効果を考え、検査自体の内容や実施について、他の検査との比較も検討してほしい。また、人前で話すことに慣れ、他の人の様々な考え方に触れることができるよう、KJ法を使って意見をまとめ、発表させるなどの協同作業を体験させてほしい。</p> <p>⑦ 民泊先の家庭状況の違いによって、体験やコミュニケーションのとり方に差が出ることについて検討の余地がある。文化祭で事前学習の一環として、沖縄についての展示発表があったが、立派なものが多かった。</p>	
vi 学校評価のまとめ	
<p>⑥ コミュニケーション能力の向上を図るために、生徒の現状を把握することは必要であり、テスト方式の検査の結果をさらに有効に活用していきたい。</p> <p>⑦ 修学旅行のまとめとして文集の作成や民泊先への「お礼の手紙」を通して文章表現力の向上を図るとともに、相手を思いやる心も養うようにしたい。</p>	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_10

部・学年	進路指導部	
重点目標	1 生徒の進路意識の向上を図る。	
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
① 進路に関する面接や個別指導の充実に努める。 ② 進路説明会・ガイダンス・インターンシップなどを実施し、職業観や勤労観の育成に努める。 ③ 進路ニュースを発行し、情報を提供するよう努める。	① 面接指導・個別面接の実施回数とその状況 ② <u>進路説明会・ガイダンス・インターンシップの実施回数、参加人数、活動状況</u> ③ 進路ニュースの発行回数とその状況	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）		
① 以下のような指導により進路意識を高め、進路実現を目指した。外部講師による「面接のマナー指導」（6/1）及び「分野別集団面接練習」（6/8）、個別面接指導（6/11～6/20、7/21～8/31、9/2～9/8、それぞれの時期に応じて徹底的に指導）、就職相談（7/14～7/16、45名）、指定校及び公募推薦生徒の個別面接指導（10月、13名、直前まで一人数回ずつ実施）、就職2次以降の応募生徒への個別面接指導（10月～11月、22名、1次での失敗の反省を生かせるように指導） ② 以下のような指導・体験により職業観や勤労観の育成を図った。大学短大説明会（第1回30名 第2回14名）、指定校説明会（17名）、専門学校説明会（第1回30名 第2回35名）、就職説明会（第1回49名、第2回50名、分野別の情報を周知）、インターンシップ（7/21～7/23、1年1名、2年4名）、専門学校体験（2名）、ナース体験（1名）、進路ガイダンス（4/27 3年123名、11/5 1年159名、11/30 2年136名、5・6限に学年段階に応じた形態で実施し、進路意識を高める契機とした） ③ 進路ニュースを発行（1年18号・2年2号・3年13号1/8現在）し、様々な情報をタイムリーに伝えられた。1学年では朝自習で読み合わせをした上で、保護者へも見せることとした。家庭においても話題となってきている。		
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）		
① 面接指導・個別面接は3年副担任・主任の5名と担任以外の進路部員5名を中心に実施した。就職希望者が多くなっているため、個別に対応するために、学年外の職員の協力が必要である。 ② インターンシップについては周知が足りず、応募者が5名と少なかった。ポスターや掲示物をさらに活用して、実施の意義を周知する工夫をしたい。 ③ 学年ごとに進路ニュースを発行するために、各学年の進路指導担当者の人数について配慮が必要である。		
v 学校関係者評価の結果		
① 説明会や個別指導は他校に比べても充実しているし、計画的に実施されていてよい。 ② 世界的不況のもと、就職内定率の全国平均は約60%の内定率だという。法典高校では現在71%の内定を得ているのは立派であるが、ある工業高校では企業と学校のつながりを密にして100%の内定を得、早期退職もないという。上を目指してさらなる努力を期待する。 ③ 進路ニュースは生徒を通じて読んだが、1年の内から重要な情報が伝えられている。本人が見て理解しているか疑問に思ったが、朝自習で読み合わせをしていると聞き安心した。2年生は2回しか発行していないようだが、1年における学びを継続的に生かせるようにしてほしい。		
vi 学校評価のまとめ		
① 生徒への説明会や個別指導を充実させるために、面接等の指導体制の見直しを図る。 ② インターンシップ等の体験活動の意義を周知し、多数の生徒が参加できるよう周知の方法を再検討する。 ③ 進路ニュースを活用して進路に対する意識や知識を継続的に高めていくために、学年ごとの指導体制の見直しを図る。		

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_11

部・学年	3 学年
重点目標	2 教育活動の成果を集大成して3年生一人一人の進路実現を図る。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
<ul style="list-style-type: none"> ④ 進路意識を高めるために、大学等の説明会や会社見学等へ積極的に参加させる。 ⑤ LHRや法典タイム（総合的な学習の時間）を使つての進路学習を充実させる。 ⑥ 個別指導を行い、進路決定率を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 大学等の説明会や会社見学等へ参加状況 ⑤ 進路学習の実施状況 ⑥ 個別指導の状況，進路決定者数
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
<ul style="list-style-type: none"> ④ 大学・短大・専門学校については出願前に最低2校の学校見学に行くように義務づけた。就職希望者は夏休み中に志望の会社の見学を行った。 ⑤ 1学期中のLHR3回、法典タイム4回を使い、適性検査、進路別説明会、求人票の見方、敬語の使い方、面接の受け方まで行った。 ⑥ 2学期に入ってから放課後を利用し個別に就職指導、進学指導を進めた。12月14日現在の進路状況は、就職40名、専門学校34名、大学・短大19名、未定30名である。 	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
<ul style="list-style-type: none"> ④ 会社見学では、普段電車を利用する生徒が少ないため、事前指導をしたにもかかわらず遅刻してしまった生徒がいた。 ⑤ 面接指導に関しては、1学期は生徒の緊張感が不足、学んだことを忘れてしまい、2学期の本番につながらなかった。 ⑥ 今年度の社会状況を考えると、生徒は非常によく頑張った。 	
v 学校関係者評価の結果	
<ul style="list-style-type: none"> ④ 就職生徒の中には2～3ヵ月で離職する生徒がいると聞く。企業のニーズを確認するとともに、本人の意向を充分尊重して進路指導をお願いしたい。 ⑤ 進路指導に関してよく頑張っていた。引き続き最後までお願いしたい。 ⑥ この不況の中で就職決定率71%は大変評価できる。 	
vi 学校評価のまとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ④ 進路関係の情報を生徒・保護者に十分浸透させ、進路便りや進路説明会をさらに活用する。 ⑤ 進路決定時期に生徒の基礎学力が十分に備わっているように、補習を1年時より組織的・計画的に行う。 ⑥ 進路未定者を一人でも減らすために担任、進路部職員だけに任せるのではなく学年職員全員で進路指導にあたる。 	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_12

部・学年	生徒会保健部	
重点目標	生徒会活動や部活動を通して、生徒の自主性・社会性を育てる。	
	i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒会本部が中心となって、文化祭の質を向上させるなど、学校行事の活性化を推進する。 ② 過半数の生徒が部活動に所属し、積極的に活動できるよう、各学年と連携して指導する。 ③ 高校生のボランティア活動を推進するため、活動を休止していたボランティア同好会を復活させ、生徒会役員が率先して加入・活動するよう指導する。 ④ 近隣の県立船橋特別支援学校との交流活動について、具体的な計画を立て、継続的な取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化祭など学校行事実施後のアンケート調査 ② 部活動の活動状況及び加入率 ③ ボランティア同好会の活動状況と会員数 ④ 交流活動の状況と参加生徒数
	iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
	<ul style="list-style-type: none"> ① 演劇やオブジェ製作など、意欲的な企画を成功させたクラスの活躍をはじめ、安易さに流れない展示発表が増えた。担任・顧問の熱心な指導により、体育祭など、他の行事についても、同様の成果が確認できた。 ② 経済的に困難な状況もあってか、部活動の加入率はやや伸び悩んだが、陸上競技部や卓球部を始め、活性化に成功した部活動も見られる。 ③ ボランティア同好会の復活には至らなかったが、生徒会本部が中心になって、ペットボトル・キャップ回収運動や歳末助け合い募金を行った。 ④ 12月に生徒会新旧役員生徒15名で同校を訪問して交流会を実施した。今後の交流活動の基礎が固まり、順調なスタートを切った。 	
	iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
	<ul style="list-style-type: none"> ① 行事終了後に職員アンケートを実施して問題点を整理し、改善への手がかりとする。また、各種委員会活動のさらなる活性化のために、生徒会本部との意見交換を進める。 ② 部活動の活性化のために、新入生に対する勧誘活動を促進させる。入学式の日を有効に活用できないか、検討するとともに、現在行っている「マナーアップ隊」の活動を継続させ、さらなる発展を模索するなど、各種ボランティア活動への参加による、生徒の意識高揚を図る。 ③ 引き続きボランティア同好会の復活を働きかけるとともに、生徒会本部によるボランティア活動を継続する。また各部活動との連携による校外活動にも取り組む。 ④ 今後、交流活動の多様化を検討するとともに、同校の体育祭などに本校の部活生徒がボランティアとして参加するなど、さらなる発展が見込まれる。 	
	v 学校関係者評価の結果	
	<p>部活動の成果などをもっと広報する必要がある。法典公園グラスポのフェンスに掲示された関東大会出場の横断幕は効果があった。ホームページの活用も大変効果的であるので、検討していただきたい。また、体験活動について、近隣での老人福祉関係施設の訪問や、わざわざ沖縄まで行かなくても地元での農業体験など、いろいろと工夫してほしい。</p>	
	vi 学校評価のまとめ	
	<p>いただいた学校関係者評価は、いずれも校内分掌間の連携を要する事柄であるが、総合的に検討していきたい。また、来年度に向けて、生徒・保護者向けの広報媒体として、生徒会新聞の発行を目指したい。</p>	

学校目標設定報告書・学校評価実施報告書_13

部・学年	特別支援教育
重点目標	特別な支援を必要とする生徒をはじめ、すべての生徒へのきめ細かな対応を心がけ、生徒一人一人を大切にする学校を目指す。
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）
文部科学省の高等学校における発達障害支援モデル事業における実践的研究や教材開発等を行う。	平成21年度のモデル事業に係る協力者との協議会、特別支援教育校内支援委員会及び研究・モデル事業推進委員会の開催状況
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）	
<p>特別支援教育課指導主事、県総合教育センター研究指導主事、県子どもと親のサポートセンター主任指導主事、植草学園大学准教授、臨床心理士の5名を協力者として委嘱し、5月22日、9月11日及び3月16日に協議会を開催した。協議会では、モデル事業指定2年目の実践内容と研究のまとめの方向性を明確にすることができ、予定の成果を得ることができた。また、校内支援委員会を、毎週金曜日の第6校時に開催し、個々の生徒の状況やモデル事業の実践方法について検討した。開催した校内支援委員会のうち6回は、外部講師を招き、専門的なアドバイスを受けた。さらに、全職員対象の特別支援教育に関する研修会も3回開催し、職員の専門性を高めるとともに、モデル事業に係る実践的研究を推進することができた。なお、生徒のソーシャルスキルの発達を促すための視聴覚教材を、独自に開発する予定であったが、予算面で断念することになった。</p>	
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）	
<p>今後の課題は、モデル事業指定終了後における、特別支援教育に係る校内推進体制の維持と研究成果の活用である。</p>	
v 学校関係者評価の結果	
<p>研究の成果を十分に活かして、生徒一人一人を大切にする学校の実現に繋げてほしい。</p>	
vi 学校評価のまとめ	
<p>2年間の研究成果を本校の大切な財産として、将来へ引き継げるよう配慮したい。また、特別支援教育校内支援委員会の取組を推進し、すべての生徒へのきめ細かな対応ができる体制を整えていきたい。</p>	